

『神のわざはひはつ』 ヨハネの福音書 6章22～34節 2017.8.27(聖日礼拝説教より)

『イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。』』ヨハネの福音書 6章30節
この世の「評価主義、実績主義」は常に「良いわざ」を要求する！しかし神の御心は全く違う？

❶ 欲を満たそうとする、人のわざ(26節)…イエスが群衆を満腹にした時、『この方こそ「第二のモーセ」だ(申命記 18:15)』と大歓迎！彼らは、イエスが誰かを知ることなく、実利を喜んだ。私たちも、この世のもの(お金、実績、評価…)で心を満たそうとするが、心の隙間を物で埋めることなどできない！心を満たすのは、神の愛と、隣人との間に生まれる愛だけ！お互いに心が通い合う時、初めて人は幸せを実感する！弱さも欠点もある、ありのままの自分が受け入れられる…そこが本当に幸せな居場所！それはどこにある？「7を70倍するまで無限に赦せ」と言われ、十字架で私たちの罪、汚れ、全ての弱みを身代わりに負い、無限の赦しと憐れみを注がれたイエスの許にある。『いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるもの(6:27)』。『働きなさい』とは、『追求する』の意。求めれば誰でも、この永遠に変わらないパン(愛)が与えられる！

❷ 人の心(霊)を満たす、神のわざ(29節)…群衆は、「そのために、何をすべきか(6:28)」と問うが、主は、『あなたがたが、神が遣わした者を信じるのが、神のわざだ』と答えた！御子を世に遣わし、私たちを罪の滅びから救おうとされる神の無限の愛と憐れみを信じるのが、唯一の「わざ」であり、他に何の良き行ないも求められていない。◆私たちの体は、私たちが食べたもので出来ている！その心(霊)は、私たちが信じた神の言葉で生きる(申命記 8:3)！そこで語られた愛を信じる時、私たちの心は満たされ、真の命が保たれる！「神のわざ」とは、「神だけがなされる」の意。神の愛が信じられるのも、人が赦せるのも、思うようにならず、イライラ、怒り、不満な心に、平和が回復するのも…何もかも、神が力を与え、御言葉を通して正しく導き、悪から守られるから！パウロも言う…『私はすべての使徒たちよりも多く働いた。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みだった(Ⅰコリント 15:10)』と。

★あなたは、求める者に必ず神が働かれ、神が、あらゆる人、あらゆるチャンスを生かして、その人が、神の愛に信頼して生きられるようにされることを知っているか？今、『主よ、いつもそのパンを私たちにお与えください(6:34)』と、主に渴いて求めたい！